

(様式3)

## 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成25年7月29日

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0873500086		
法人名	社会福祉法人 愛孝会		
事業所名	グループホーム 福祉の森 聖孝園	ユニット名	新館
所在地	〒319-1305 茨城県日立市十王町高原333番地6		
自己評価作成日	平成25年3月1日	評価結果 市町村受理日	平成25年7月24日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0873500086-00&amp;PrefCd=08&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0873500086-00&amp;PrefCd=08&amp;VersionCd=022</a>
-----------------	---

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成25年4月30日	評価確定日	平成25年7月9日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>自然豊かな環境の中で、柿の収穫や山菜採り山栗拾いなど四季折々の楽しみ事が充実しています。山菜採りの時期には地域の方々との交流ももてます。</p> <p>花壇や菜園作りも入居者と共に、無理なく参加できるように工夫しています。</p> <p>広い敷地の中、安全に入居者の体調や生活リズムに合わせて、ほぼ毎日散歩をおこない体力の維持や気分転換を図り、季節を肌で感じていただける機会を作っており、職員とのコミュニケーションの時間としても活用しています。</p> <p>行事としては、施設全体での合同行事とグループホーム独自の行事とがあります。</p> <p>グループホーム独自の行事では、入居者からの意見を参考に実施したい内容や行先などの年間行事予定を立てています。</p> <p>屋外の行事ではバスハイク、定期的な買い物・昼食ツアーや入浴ツアーなどを行っており、積極的に外に出ることで、地域の一員としての生活を可能な限り継続できるよう支援しています。</p> <p>屋内の行事では流しそうめん、そば打ちのほか季節毎の行事、納涼祭、家族懇談会、懇親会などご家族と共に楽しめる催し物を行っています。</p> <p>また、地域で活動しているボランティアの方々や来訪されコーラス、日舞、ダンス、フラワーアレンジメントなどを行っていただいています。</p> <p>地域住民で構成されているサロン「高原交友会」、民生委員の方々にも行事に参加していただくなど地域の方々との「ふれあい」を大切に交流を深めています。</p> <p>職員には認知症ケア専門士、認知症介護アドバイザーがいて、サポーター養成講座を開催し地域の方に認知症への理解を深めていただけるよう活動しています。</p> <p>グループホーム独自の広報誌を年に1回発行しており、入居者のホームでの活動内容、生活の様子などを掲載しご家族や行政などに配布して地域に根ざし理解を深められるよう取り組んでいます。</p>
---

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>事業所は山々に囲まれた自然豊かな環境に立地しており、四季折々の風情を楽しみながら心穏やかに暮らせる環境となっている。</p> <p>代表者は地域との係わりを重視しており、利用者が職員と一緒に地域の小学校の運動会や盆踊りに参加ができるよう支援しているほか、職員が地域で行われる草刈りの奉仕作業に参加するなど、地域に根ざした交流に取り組んでいる。</p> <p>老人会や地域住民による芸能ボランティアを受け入れたり、地域住民によるサロンや民生委員と交流する場を設け、利用者が地域とつながりながら生活ができるよう支援している。</p> <p>年間行事計画を立て、初詣や花見、芋掘り、柿狩り、買い物ツアー、外食など、毎月様々な外出を支援するとともに、日課の散歩や東屋での茶飲みなど、毎日生き生きと生活ができるよう支援している。</p>
--

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人全体の基本理念とは別にグループホーム独自の理念「なじみの暮らしの継続、地域の一員としての生活」を掲げ取り組んでいる。グループホーム会議や日々の業務の中で理念を話題にあげ常に意識づけ、より良い介護が提供できるよう話し合っている。運営理念を職員一人ひとりが熟知し、名札裏に携帯するほか、事務室や玄関入口、ホールなどにも掲示して常に理念を念頭においてケアにあたっている。	「住み慣れた地域で、地域の一員としての生活を可能な限り継続できるように支援します」を理念の一つに掲げ、事務所や玄関、居間に掲示している。 職員は全体会議や日々の業務の中で理念について話し合うとともに、理念を名札の裏に携帯して共有し、実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事への参加を大切にしており、小学校の運動会や盆踊り大会、虫見学など積極的に参加している。年に数回、地域住民で構成されているサロン「高原交友会」や地域の民生委員など、多くの方に行事や防災訓練などに参加していただく交流の場を設けている。その際、グループホームの活動の紹介や認知症への理解を深めてもらう働きかけや、多くの意見等が得られるように取り組んでいる。行事では買い物、昼食会などで積極的に地域へ出向き、地域の一員として交流を深めている。地域住民との関わりとして、年1回の地域奉仕作業（草刈り）に職員が参加している。また、徘徊などで入居者を見かけたときには連絡をもらえる体制ができています。その他、同法人の保育園児が来訪しての交流会を行ったり、老人会や地域住民によるボランティアグループが来訪し日舞やカラオケなどを披露していただきながら交流を交わしている。	利用者と職員は地域の小学校の運動会でのゲームや地域の盆踊りに参加し、地域の人々と交流している。 老人会のほか地域住民によるカラオケや日本舞踊などの芸能ボランティアを受け入れたり、年数回事業所において、地域住民で構成するサロンや民生委員との交流の場を設けている。 年1回地域で行われる草刈りの奉仕作業に職員が参加し、地域の一員としての役割を担っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月行なっている避難訓練に民生委員を招き、一緒に訓練に参加していただきながら認知症の方々とふれ合う機会を設けている。職員の中には「全国キャラバン・メイト」に登録された認知症介護アドバイザーが居て、サポーター養成講座を開催し「地域でどんなふうに認知症の方やその家族に関わったらいいのか」との内容で寸劇を行った。また、十王地区コミュニティで年に1度開催する「健康福祉まつり」に設けた物忘れ相談コーナーでは、認知症ケア専門士の資格を持つ職員が、認知症のある家族を介護されている方々の相談ののったり、専門的な分野からの助言をし、地域の方に認知症への理解を深めていただけるよう地域に向いて活動をしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では事業所からサービスの実際、取り組み、地域との交流についての報告や話し合いをしサービスの向上ができるよう努めている。地域包括支援センター職員も参加している。会議の中で年2回実施している家族懇談会と運営推進会議を合同で開催しており、家族から質問や意見、要望など活発な話し合いがなされサービス向上に活かしている。そのほか、運営推進会議とは別に、「高原交友会」との交流会を年2回、民生委員参加の防災訓練と意見交換会を年1回行っており、多くの地域関係者が集う場を設け、交流を深めながらサービスの向上に向けて取り組んでいる。	運営推進会議は利用者の代表や家族等の代表、市職員、地域包括支援センター職員、地域住民の代表などで2ヶ月に1回開催し、会議録を作成している。会議では行事報告や事業所の状況報告をしており、災害対策について話し合った結果、近隣の元消防団員に避難訓練へ参加してもらうなど、運営に活かしている。年6回の運営推進会議のうち、2回は家族懇談会を合わせて開催しており、家族等から意見や要望などを汲みとり活発に話し合い、出た意見等をサービスの質の向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業を行っていく上で生じる課題などあれば気軽に問い合わせ、相談し解決を図っている。管理者は日立市高齢者政策推進会議の委員や介護認定審査会の委員を務めており市町村との関わりを密にしている。市主催の事業者懇談会にも参加して、市・他事業者との交流を図っている。	管理者が介護認定審査会の委員を務めるなど、市と協力関係を築いている。管理者は市担当者に電話で運営に関する問い合わせや相談などをして日頃から市との関係を密にしている。事業所は口腔ケアに重点を置いており、市の担当課に相談したところ、担当者が来訪し実技指導をしてくれるなどの協力を得ている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束による入居者が受ける身体的、精神的弊害を全職員が理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。定期的に身体拘束に関する勉強会や研修などを行っている。日中は入居者の行動を制限することのないよう、出入り口には鍵をかけることなく生活しているが、夜間に限り、一般家庭同様、安全のため正面玄関と裏口ドアのみ鍵をかけている。	身体拘束排除マニュアルを作成し、職員は禁止の対象となる身体拘束の具体的な行為を理解するとともに、身体拘束排除宣言や禁止となる身体拘束の11項目を事務室に掲示している。玄関や居室は施錠せず、利用者の自由な生活を支援している。職員は併設する特別養護老人ホームで実施する身体拘束排除に関する研修を受講しているほか、日々の記録「気づきメモ」で日常の支援を振り返り、身体拘束をしていないかどうか職員で確認し合い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修にて「高齢者虐待防止」に関する勉強会を行っている。併設の地域包括支援センターは、日立市高齢者権利擁護推進会議にも参加しており、適宜必要な情報を受けることが出来ている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修で勉強会を行っているほか、職員会議で外部研修の復命を受けてはいたが実際の活用が必要になる対象者も無く、理解や浸透は十分ではない。現在までに必要とされる対象者はいないが今後、必要とされる対象者が入居した際に速やかに活用していけるよう今後も継続してグループホーム会議で議題にあげ、職員の周知に努めたい。		
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、ご家族・入居者には口頭・書面両方で十分な説明を行い、納得いただいたうえで契約を取り交わしている。特にグループホーム内での生活をご理解いただけるように十分な時間を持つことに配慮している。利用料は詳細が示されている料金表を掲示し、説明、個人情報に関する事等も十分に説明している。入居契約時には、解約に関する説明も行っている。退居の際は契約に基づき、介護支援専門員・主治医も含め、入居者・ご家族と十分に話し合い、納得のうえで引き、退居先の支援もおこなっている。また、再入居への対応も行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	第三者委員の設置及び、ご意見受付窓口を設置している。グループホーム内に苦情の窓口を明示したほかに、ご意見箱も設置している。また、ご家族、入居者に毎月お渡ししている「お便り」にもご意見・要望欄を設けている。年2回の家族懇談会では、運営推進会議を合わせて開催し意見、要望などをいただける機会を設けている。毎年3月に実施している家族懇談会では、活発な意見交換が出来るよう、ご家族に事前アンケートの協力をお願いしている。	重要事項説明書に苦情解決を図る第三者委員の設置を明記するとともに、事業所内に事業所と第三者機関の苦情相談受付窓口を掲示している。 毎回の運営推進会議に利用者の代表や家族等の代表が出席しているほか、年2回運営推進会議に合わせて家族懇談会を開催しており、意見や要望を汲みとる機会を設けている。 毎年3月に家族懇談会を開催する前にアンケートを実施し、結果を家族懇談会で話し合っ運営に反映させている。 月1回介護相談員の来訪があり、利用者の話を聴いている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回行っているグループホーム会議では、職員の意見を取り上げ、そこで挙げた内容を運営委員会や職員会議で報告、協議している。必要に応じてミーティングも随時行い、職員からの意見や要望などが出やすい雰囲気作りに配慮しながら、発言する機会を設けている。	管理者は月1回全体会議を開催して職員から意見や要望を聞くとともに、出た意見等を同一法人の運営委員会などで報告し、協議して運営に反映させている。 管理者は必要に応じてミーティングを行い、勤務体制や備品購入など、職員の要望に迅速に対応できるよう努めている。 年1回個人面談を行う前に職員アンケートを実施し、職員の待遇や仕事について意見を汲みとり、運営に反映させている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	なるべく全員に対し資格取得に向けて意欲を引き出せるように、勤務調整しながら努めている。勤務年数や日々の勤務実績などに応じて昇給することにより、本人のやる気を引き出す配慮をしている。研修会への参加も促している。年1回、職員へのアンケート調査を実施し、各職員の悩みや気づきを引き出しチームワークの強化を図り、働きやすい職場となるよう努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内において、内部研修の年間計画を立て、月1回の職員会議で実施している。施設外研修はパート職員も含め積極的に参加している。また、職員会議の際には個々に受講した内容について報告を行っている。グループ会議では偶数月に、事例をもとにBS法を用いて勉強会を行っている。管理者がグループ会議にて職員への助言、指導、最新情報の提供をしている。職員の援助技術の向上を年間の事業計画の目標に掲げ、実践を重視した勉強会を行ったり、気づきメモを活用し職員の気づく力、見極める力の向上、習得につとめ介護専門職としてのスキルアップを図っている。新しい職員には新人研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	研修会などで質の向上に向けた勉強をしていると共に情報交換やネットワークづくりに心がけている。更に、市主催の事業者懇談会へ参加した際は、グループホーム間での情報共有、職員が抱える悩みなどの意見交換をするなど交流を図っている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	グループホーム見学や入居申込み又は、入居前の面接調査時の際に、本人の声を聴く機会を設けている。これまでの生活状況もよく確認するようにしている。入居前に居宅サービスを利用していた方であれば、担当の介護支援専門員から情報提供を受けるようにしている。またグループホームの生活に不安や心配事が生じないようによく説明し、少しでも安心、納得してもらえるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込み時や相談時には、併設の地域包括支援センターの職員も交え、家族などの困りごとや不安、求めていることをよく聴くようにしている。また、グループホームの運営方針や基本理念、日々の過ごし方や生活を伝え、内容を理解したうえで、利用していたるように努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時には、本人や家族の現状、要望などを担当職員や介護支援専門員が、よく話を聞き、いまだどんなサービスが必要なのかを多面的にとらえたいうえで、その方にとって最善の支援を提案し、必要な助言をしている。短期利用共同生活介護（ショートステイ）の利用も活用していただいた方もいる。同法人の中に地域包括支援センターが設置されており必要時には協働している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者を第一に考え、出来ることは行っていたき達成できたときは共に喜ぶ事を全職員が心がけ、馴染みの関係を築いている。人生の先輩として教えていただく事も多く、入居者の声かけや励まして職員が癒される事もある。支援しているという意識を持たず謙虚な気持ちで協働しながら生活している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者個々の近況報告や気づいた事、行事予定など日頃の暮らしぶりを電話連絡やグループホーム便りで毎月報告し情報の共有化につとめている。また、家族にも行事などに参加してもらい家族、職員と一緒に入居者本人を支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の生活環境、交友関係が入居後に大きく変わることなく継続的な交流がもてるよう、家族や友人などに理解と協力を求めている。近所の方や友人などが来園された時は、これまで同様のお付き合いが継続できるようお願いをしている。山部小学校の運動会など恒例の地域行事に参加の際は知人、友人と再会できる場として毎年楽しみにしている入居者も多い。	職員は家族等や友人が来訪した際や利用者の病院受診の付き添いのため家族等が来訪した際に、なるべく多く来訪してもらえるよう伝えているほか、親戚の人が利用者の居室に泊まる場合は寝具や食事を提供するなど、馴染みの人との関係が継続できるよう支援している。 職員は利用者が地域の小学校の運動会で近隣の友人や知人に再会できるよう支援し、馴染みの関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う入居者と自由に過ごす時間を持ちながらも時には支え合う温かみができる。職員は状況や必要に応じて入居者同士の関係が良好に保てるよう、さりげなくフォローしたり時には介入し、共同生活が円滑に運ばれるよう働きかけている。入居者の中には同地域出身者で昔から顔なじみという方が多く、自然と会話も弾み良い関係性が出来ている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院で退居された方など、定期的にお見舞いに伺い、経過を見守り今後の支援相談などアドバイスをしている。他サービス利用が必要な場合は相談を受けたりアドバイスするなどして支援している。退院後の再入居への対応も行っている。	/	
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	家族、本人に意向・要望などを、そのつど確認してフェイスシートに記載し、サービス計画を立案している。また日々の生活の中で本人の思いを汲み取って、一人ひとりにあった暮らしができるよう会議などで検討し、ケアに反映できるようにつとめている。6領域のアセスメントシートを活用し自立支援、個別性などアセスメントの視点を広げている。	職員はアセスメントシートを活用して利用者の生活歴や思いを把握するとともに、日々の会話や行動から利用者の思いを汲み取り、記録して全職員で共有し、利用者一人ひとりの希望にそった生活ができるよう支援している。 意志疎通が困難な利用者の場合は家族等から電話や来訪時に話を聞いたり、しぐさや行動から思いを推し量り、利用者本位の支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者や家族から生活歴などの情報を聞き、フェイスシートやアセスメントシートに記載し、その情報をもとに、その人らしい暮らし方が継続できるようにつとめている。	/	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員の気づきを活用し、その人らしさを尊重した個別ケアの提供ができるようにつとめている。ケアを提供するために、その人の生活歴、性格、嗜好、思い、分かること、できることなど多くの情報を集めてアセスメントし、会議などで話し合っている。	/	
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人と家族に意見や要望、生活に対する意向などを聞いたうえで、必要に応じて医師や管理栄養士などの助言をもらい、カンファレンスを行い、気づきや意見アイデアなどを活かし実情に合った介護計画を作成している。基本的には3ヵ月ごとに定期的な見直しを行っている。モニタリングの際は実施評価表を作成し目標達成度を見ながらより現状に即したケアを行えるようつとめている。入居者の状況変化があった時にも本人、家族、必要な関係者と話し合い、認定調査票、主治医意見書なども参考にしてカンファレンスを行ってプランの見直し、変更をしている。	介護計画は居室担当職員が利用者の意見を聴くとともに、面会時や電話で家族等の意見や要望を聴き、必要に応じて医師や併設する特別養護老人ホームの管理栄養士の助言をもらい、居室担当職員や介護支援専門員、計画作成担当者などでカンファレンスを行って作成しているほか、3ヶ月毎にモニタリングを実施して見直している。 利用者の心身の状態に変化が生じた場合は、医師の意見書などを参考にしてカンファレンスを行い、利用者の現状に即した介護計画に見直している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルが用意しており、日常の暮らしの様子や本人の言葉、健康状態（食事、水分、排泄状況、血圧、体温、SPO <sub>2</sub> など）を測定し記録して実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて病院受診（定期受診も含む）の支援、希望者の歯科往診の支援、入居者の状況や必要に応じて気分転換を目的に、本人が好む場所（近所のスーパーなど）への外出など臨機応変に行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアでコーラス、日舞、ダンス、三味線など地域の方々が来園され交流を深めている。フラワーアレンジメントでは個々の力を発揮し、楽しみ事が増えている。また、買い物ツアーや昼食ツアー、うららの湯、バスツアーなどの行事で外へ出かけ、地域の方々と接する機会を設け支援している。その他に年2回の消防署立会訓練、警察官の立寄り、地元消防団の夜警の協力を得ている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医へ受診する際、本人の状況など必要な情報提供を行い、医師からの助言や支援について留意することなどは持ち帰り、職員間で共有している。入居前からのかかりつけ医を大切に、家族、医療機関と連携をしている。かかりつけ医以外に受診の際はこれまでの経緯や本人、家族の意向、または専門性などを勘案し、適切な医療が受けられるよう配慮している。	契約時に利用者や家族等が希望するかかりつけ医を確認している。 かかりつけ医への受診は家族等と職員が利用者の日々の健康状態を記載した「情報提供書」を持参して付き添うとともに、受診結果は全職員で共有している。 併設する特別養護老人ホームに週2回の訪問診療があり、グループホームの利用者も受診ができるよう支援しているほか、歯科医による訪問診療も受診することができ、利用者の状態に応じて適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の状況を把握し、職員間で情報は共有している。施設内（特養）の看護師も含め気軽に相談でき、24時間連絡可能な体制を確保している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した際には、サマリーの様式で、普段の生活の様子や留意する事項の情報を提供し、なるべく対応を変化させないように注意している。家族や医療機関と連携を図りながら、入院中の状況把握、情報を共有し、早期退院に向け、医療機関の相談員や主治医、家族と話し合いを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在、重度や終末期の対象者はいないが、職員は終末期ケアの研修を受け、その内容を職員間で共有することで理解を深めている。病状が不安定で急変しやすい入居者へは、家族や医療機関と連携を図り、本人の状態把握、緊急時の対応など方針を決めながら支援している。	事業所では現在終末期の方は利用対象としておらず、重要事項説明書に「事業所からの申し出により退所していただく場合」として「入院治療が必要となるなど、事業者が自ら介護サービスを提供することが困難となった場合」と明記し、契約時に利用者や家族等に説明をしている。 年2回の家族懇談会で事業所ができることとできないことを十分に説明し、必要に応じて他の施設への入居相談に対応している。 病状が不安定で急変しやすい利用者は家族等や協力医療機関と連携し、緊急時の対応について話し合っている。 職員は終末期ケアについての理解を深めるため、併設する特別養護老人ホームの研修を受講している。	
34		○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員が普通救命講習の修了証を所有し、定期的に更新している。毎月の防災訓練、勉強会などで技術の向上や維持に努めている。緊急時対応マニュアルを作成し、緊急時対応の連絡方法なども周知徹底している。また、マニュアルを見やすく掲示して対処している。		
35	13	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月1回、火災、地震を交互に施設全体で訓練し、年2回の消防署立会い訓練、年1回の夜間を想定した訓練、民生委員が参加する避難訓練等を行っている。また、警察官の立ち寄り、地元消防団の夜警の協力もある。火災発生時の自動通報先の1つに、一番近い地元消防団宅を指定している。	消防署立会いのもと夜間を想定した総合避難訓練を実施しているほか、月1回火災や地震を想定した避難訓練を地域の民生委員の参加を得ながら実施し、訓練後は検討会を行って実施記録を作成している。 警察官の立ち寄りや地元消防団による夜警の協力があるほか、火災発生時には自動通報システムにより消防署や地元の元消防団長宅に通報ができるシステムとなっている。 災害に備えて併設する特別養護老人ホームの倉庫にカレー缶や防火備蓄用コッペパン、米などを備蓄しているほか、敷地内に井戸を設置している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーや個人情報保護に関する研修を職員会議などで全職員が定期的に受けている。運営理念である「人格の尊厳を守り」を職員は意識しながら、さりげないトイレ誘導、言葉かけや対応をしている。グループホーム会議で「言葉かけ」「言葉の拘束」などを議題にあげ常に確認し合っている。	法人全体で人格の尊重やプライバシーに関する研修を実施するとともに、理念の中で「人格の尊厳を守り、健康で楽しく、生きがいのある生活が送れるようにつとめます」を謳い、職員の意識向上に努めている。全体会議で言葉かけや言葉の拘束などを議題にあげ、適切に対応ができていのかどうか全職員で確認し合っているほか、トイレ誘導時にはさりげなく誘導するなど、プライバシーに配慮した対応を心がけている。個人情報に関する書類は事務所の書棚に保管し、取り扱いには十分に注意をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の場面ごとに、入居者のしぐさや表情に目くばり、気くばりを心がけ、まず入居者本人の声を聴き意思を確認したうえで行動にうつすなど、自己決定できるよう心がけている。または、入居者の声なき声を聴き、良く見て考え、気づきをもって接している。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のおおよその流れはあるが、起床、就寝時間、食事にかかる時間など、本人のペースで行えるよう対応している。何事も入居者の声に耳を傾け、職員は申し送りの中で、その日の様子、個々の意向に沿った支援ができるよう確認、記録し対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の個性を大切にしながら衣類の調整、整容をさりげなく支援している。買い物に出かけた際は個々の好みに合った店や物品を選べるよう支援している。理美容は、地域の理容、美容院が月3回、来園していて希望者は予約利用している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りだけにこだわることなく、多面に充実した内容で支援したいと考えており、現在は味噌汁とおやつ作り、誕生会や行事での昼食作りを一緒に考えたり作る段取りを共に行っている。配膳、後片付けなどは個々の力を活かしながら職員と一緒にしている。天気の良い日は広大な敷地を活用し、ピクニックを行い楽しみをもって食事ができるよう支援している。定期的に昼食ツアーと称して外出に出かけているが、その際、入居者の嗜好に沿って行き先を決めている。団子作りやそば打ちなど一緒に作る楽しみと季節に合わせ旬のものを味わって頂けるよう支援もしている。	職員は利用者と一緒に食卓を囲みながら同じ食事を摂っている。 利用者はできる範囲で食事の準備や配膳、下膳、後片付けなどの役割を担っているほか、男性の利用者でも職員と一緒に食器洗いなどを行っている。 月1回「外出ツアー」と称して利用者の希望のレストランで外出をするほか、利用者の誕生日には嗜好にそった食事を提供している。 利用者は職員と一緒に秋の月見団子を作ったり、年末の年越し蕎麦を打つなどしており、職員は利用者が行事食を楽しめるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランス・カロリーについては、管理栄養士に指示を受けている。カロリー制限者は医師の指示を受け対応している。一口キザミ食の方がおり、身体状況に合わせた調理法で提供している。摂取量・水分量は記録し把握している。嗜好や体調に基づき個別にメニューの変更をするなど配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨き、うがいの声かけ、見守りを行っている。入れ歯の方は、うがいを促し洗浄が自力で出来ない方には、本人の能力や生活ペースに合わせて預かり洗浄を支援している。毎食後、外出後にうがいや手洗いを促し、口腔内の清潔、感染予防に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表、個人記録に本人の状況を記録し、昼夜、個人のリズムに合わせたトイレ誘導や見守り、必要に応じてポータブルトイレの設置など個々に合わせた排泄ができるよう、自立に向けた支援をしている。布パンツやパッドの使い分けをして、排泄機能の低下を予防できるようにも取り組んでいる。	職員は排泄チェック表を作成して利用者の排泄パターンを把握し、個人のリズムに合わせてトイレ誘導をしているほか、見守りにより自立した排泄ができるよう支援している。 日中は布パンツ使用の利用者が殆どで、外出時や体調不良の場合はリハビリパンツを使用しているが、なるべく布パンツを使用しながら過ごせるよう時間毎のチェックや声かけなど、きめ細かい支援をしている。 夜間は居室にポータブルトイレを置き、排泄の自立に向けた支援をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事面では毎朝、温めた牛乳の提供や繊維質の多い食材を取り入れている。運動面では、体操や天気の良い日には毎日散歩をするなど、日常的に取り組み、自然排便を促している。	/		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	季節によりシャワー浴や入浴日以外で希望される方の入浴実施も行っているほか、入浴順番表を掲示しトラブルのないよう配慮している。個々のペースに合わせてゆっくり入っていただけるよう支援している。入浴日は、火木土（女性）水金日（男性）で実施している。毎回、入浴剤を入れリラクセスして入浴できるよう配慮している。また、ゆずや菖蒲、桜やバラの花びらを入れ季節を味わっていただいている。毎週、月曜日には足浴（足湯）、フットマッサージを行っている。			基本的に月曜と水曜、金曜に入浴支援をするほか、毎日浴槽に湯をはり、利用者の状態に応じていつでも入浴ができるよう体制を整えている。毎回入浴剤を入れたり、柚子や菖蒲、利用者が摘んだ事業所の薔薇の花びらを入れ、季節を感じながら入浴が楽しめるよう支援している。毎週日曜日に足浴やフットマッサージを行い、利用者が寛げるよう支援している。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中や夜間の様子を確認、記録し、職員間で申し送り、一人ひとりの就寝時間、睡眠時間を把握して、生活習慣に応じた対応をしている。毎日1時間ほど昼寝を含め、憩いの時間を設け休息を取り入れ、自室でゆっくり自分の時間を楽しめる工夫もしている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイル内に、薬剤の説明書（副作用、用法用量など）を保管し、全職員が内容を理解している。薬の変更に関しては個人ファイル、業務日誌に記入して職員が周知できるよう努めている。状況の変化を見逃さず、必要に応じて主治医、家族に相談し、適切な見直しができるよう努めている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人、家族から生活歴などの情報を収集しながら、草取り等外仕事の得意な方、家事が行える方にはお願ひし、日めくりカレンダーを毎朝はがす役割の方など暮らしの中で楽しみながら役割が持てるよう支援している。縫物や塗り絵、ジグソーパズル、読書など趣味を活かして楽しみごとへの支援もおこなっている。一人で、日に何度も散歩をする方や花の手入れをする方など、戸外での楽しみごととも支援している。			

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物・昼食ツアーやバスハイク、その他の行事などで外に出る機会を多く設けている。散歩は毎日の楽しみでもあり、希望に応じてワゴン車で敷地内外をドライブしたり、東屋でお茶会をするなど積極的に戸外に出かけている。施設全体の行事や地域のイベントなどにも積極的に参加している。日課の散歩以外でも本人の希望時には散歩に出たり、嗜好に伴う買い物をしたりと、個別に戸外へ出る機会を支援している。	年間行事計画を作成し、初詣や花見、ブルーベリー狩り、地域の祭事の「鳥追い祭り」など、季節に合わせて様々な外出を支援している。「買い物ツアー」と称して毎月外食と利用者の希望の店での買い物を支援し、利用者の楽しみとなっている。 敷地が広いため敷地内の散歩を日課としているほか、東屋でお茶を飲みながら四季折々の景色を楽しみ、ゆったりと気分転換が図れるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者、家族の希望により、預かり金と小口現金にて管理している。買い物に出掛ける際は本人に財布を渡し自由に買い物を楽しんでいただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやりとりや電話が気軽にできるよう配慮している。入居者の希望時には、代筆も行い家族との交流を支援している。公衆電話を設置しており、いつでも利用できる環境も整えているが入居者自ら利用する方は現在はいない。年賀状、暑中見舞いを入居者が作成することの支援もしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓から自然の光が入るよう工夫をしており、カーテンなどで調整している。また、BGMやテレビ、カラオケなどの音は職員が随時、状況に合わせて調整している。家庭的な雰囲気作りを全職員が念頭におき家具や小物も慣れ親しんだ温かみのある物に揃えて雰囲気作りをしている。入居者や来園されたご家族などが見やすいよう廊下に行事の写真を掲げており、会話が弾みほっとくつろげるよう工夫している。玄関や室内に季節の花を飾ったり、季節の行事ごとにさりげなく飾り付けをして四季を感じる配慮もしている。	居間兼食堂には大きな窓があり、広い庭や山々が眺められる環境となっているほか、観葉植物や季節の花、利用者が制作したフラワーアレンジメントの作品を飾ったり、ソファを配置し、ゆったり寛げる空間となっている。 居間兼食堂の一角に和室を設け、堀炬燵を設置して利用者同士が会話をしたり、ゆったり過ごせるよう配慮している。 広い廊下やトイレには利用者に合わせて低めの位置に手すりを設置している。 居間兼食堂や廊下、トイレなどの共用空間は一定の温度に保たれ、利用者が居心地よく過ごせるよう配慮している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになったり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室、食堂テーブルの他に、和室には掘りごたつを設置してある。その他にもバルコニーや廊下などにソファや椅子を多く置き、一人でゆっくりしたい方、気のあった少人数で談笑する方々など、思いおもいの時間を過ごせる空間を数ヶ所確保している。	/		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	契約の際、入居者、家族への説明の中で、なじみ深い物、使い慣れた物の利用をお願いしている。家族が来園された時にも継続的に働きかけ、こたつ、整理ダンス、アルバム、趣味の道具など持ってきていただいていることも多い。自宅で生活されていた環境に少しでも近づけられるよう本人の癖や習慣を考慮して、ベッドやタンス等の配置を工夫し、入居者が安心して過ごせるよう配慮している。	管理者は契約時に利用者や家族等に馴染みの物品を持参してもらえるよう説明している。 居室は畳敷きとフローリングがあり、エアコンやカーテン、タンス、洗面台、布団などが備え付けられている。 利用者は家族等と相談して使い慣れた毛布やテレビ、書棚、籐椅子、家族の写真などを持ち込んでいる。 管理者は利用者の自宅での生活状況を把握し、ベッドやタンスの配置は自宅の環境に似るよう工夫するなど、利用者好みの居室づくりをしている。	/	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の現在の状況に合わせながら、居室にポータブルトイレを設置している方がいる。物の置き場所が見やすく分かるように明示し失敗のない配慮もしている。また和室、洋室を設けておりベッド、布団の利用を本人、家族の意向をもとに提供している。居室の表示は造花や入居者の作品などを居室内外に飾り、目印にしている。トイレや居室の表示は入居者の状態に合わせ大きく目立つ物や、さり気ない物を工夫し対応している。	/		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまに <input type="checkbox"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている <input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 3, あまり増えていない <input type="checkbox"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない

(様式4)

## 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム 福祉の森 聖孝園

作成日 平成25年7月22日

### 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	5	口腔ケアについて、日立市健康づくり推進課に相談し、口腔内の健康を保つ指導を受け、口腔機能の向上につとめている。しかし、一人ひとり口腔内の状態に合わせた対応方法が、まだ十分ではないと考えられる。	食事を自歯等でよく嚙んで美味しく食べることで、入居者様が健康に過ごせる。	日立市健康づくり推進課の歯科衛生士の指導のもと、適切な口腔ケアをおこなうための介護職員への実技指導を定期的を受け、個々にあった口腔ケアを継続的に実施していく。	・年1回 (4月)

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。